



# おはようロスアンゼルス

倫理研究所U. S. A. 南カリフォルニア倫理の会

8月号会報

2202 W. Artesia Blvd. Unit L Torrance, CA 90504

Fax: (310) 323-6737

2013年(平成25年) 8月1日(木)

NO. 144

## 南カリフォルニア倫理の会の皆様へ

法人局普及事業部 次席

有坂 宏一

南カリフォルニア倫理の会の皆様、こんにちは！先般はロスアンゼルスへ出張させて頂いた際に、大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。

今回のアメリカへの出張は、私にとって生まれて初めての体験でしたので、成田空港からアメリカへ到着するまでの心中たるや、緊張：緊張：、また緊張の連続でした。

アメリカン航空に搭乗した後、飛行機の中もロスアンゼルス空港に到着して入国検査や税関を通過する間も、周囲から聞こえてくる言葉は全て英語：英語：英語！耳慣れない言葉に「なんと言っているんだらう……、どう答えるんだらう……？」と、ドキドキすることの連続でした。

だからこそ、到着ロビーで、倫理研究所機関誌『新世』を持参されていた川田夫人や藤間さんに出迎えていただいた時には、お二人の優しい笑顔も

あつて、ホッと安心感がわいてきました。

その後、滝川ご夫妻や飯田ご夫妻に、街の案内やお食事のお世話までもしていただきました。両ご夫妻の親しみやすい振る舞いに接して、異国にながらも心はとても和やかなものになっていきました。

今回の訪問では、初日に「経営者の集い」を開催していただき、倫理研究所が会員企業へ提唱する「活力朝礼」について、その方法や実施上の目的などをお話しました。

日本から持参した資料や『職場の教養』、さらにはDVD鑑賞にも熱心に目を遣う皆様の姿に、大変な感銘を受けました。

受講中の皆様の態度はとて真面目であり、その気迫が私へもビリビリとした緊張感となつて伝わってきたほどです。

集いの終了後、皆様から「参考になりました」、「早速、出来るところから取り組んでみます」などの感想をいただきましたので、「いろいろ準備をして臨んでよかったです」という想いと、「どうかロスアンゼルスでも、多くの企業朝礼を活用すること

で、さらなる発展をしますように！」という願いが生じました。

話の中では、職場だけでなく家庭内での応用方法についても我が家の実践体験を交えながら話しましたが、この点について数人の方から有難く好評をいただきました笑。

二日目は「純粋倫理学習会」、最終日の三日目は「モーニングミキサー」と、皆様と純粋倫理を学ぶ機会をいくつもいただきました。

毎回毎回「今日の話し方は早口でしたよ。もう少々ゆっくりやれば、もっと分かりやすくなりますね」、「お母様のエピソード、とっても胸を打たれました」……と、さまざまな感想がいただけ、ありがたい想いでした。

また、二日目も三日目もセミナー終了後にお食事を一緒にさせていただきましたが、そのお料理の美味しかったこと！皆様の和やかな雰囲気作りが、味をより一層美味しく引き立たせていたのだと思います。

ロスアンゼルス滞在中、川田薫会長をはじめ会員の皆様には、本当に沢山のお世話を頂きました。特に飯田たかし

さんには、初日、二日目、三日目と全日程に渡ってロスアンゼルスやその近辺の街を案内していただき、まるで家族のような対応をしていただきました。

「いろいろお世話をかけて申し訳ありませんね」という私の言葉に、「いいえ。私の方こそ、こうして一緒にできて、倫理の内容への質問が直接できて、ありがたいんですよ」と笑顔で述べていただいたことは、良き思い出として私の脳裏にしっかりと残っています。

ロスアンゼルスの皆様が、純粋倫理によつて益々幸せな人生を歩むことを心より熱願し続けております。今後も、誰もが親しみやすい雰囲気の中で会が運営されますよう、お願いいたします。

そして、新たな字び分野として活力朝礼が、会員の皆様はもちろん、未会員の方々にも共感を呼び、会の輪がさらなる拡がりを実現しますことを、海を越えた東京の地から応援しております。ありがとうございます！

## 経営者の集い

七月十二日（金）午後七時～九時、有坂宏一次席を迎え、「朝礼の効用」と題して倫理オフィスで開かれました。

一日の始まりである朝礼は、行うことによっては、目的意識、気づき、印象、イメージに変化がでます。それによって仕事への切り替えが出来、積極性、個々の意見を述べる等、職場を活性化させることができます。

次席は、DVDを使って活力朝礼の実例を紹介、法人向きに発行されている「倫理ネットワーク」をレジュメに使われ『職場の教養』を参考に会社の印象は笑顔、先手の挨拶、アイコンタクトを基本にすることで変化が得られますとセミナーを進められました。セミナーでは実際に返事、挨拶の仕方などを行いました。

朝礼は必要と解っていても方法が・・・という参加者達にも、やってみてよいことは取り入れ、続けることで結果はついてくるでしょう、職場だけでなく家庭朝礼もぜひ行ってください

と結ばれました。

朝礼が心を合わせる大切な要素であることを学ぶ意義深いセミナーでした。

（出席者十七名 内非会員四名）  
（氏家正子記）

## 会員勉強会

七月十三日（土）午前十時より倫理オフィスにおいて「純粹倫理の特質」をテーマに開かれた。講師は有坂宏一法人局普及事業部次席。

自己紹介があり、倫理とのご縁を話された。次席のお母様は理髪店である有坂家に嫁いだが義母より朝寝の注意を受け、早朝マラソン、朝の体操を試みるが挫折してしまった。そんな折、『新世』を手渡され、紹介され、心打たれ、「朝の集い」に通うようになった。次席も幼少より参加するようになった、とのことである。

次いで倫理研究所発行図書『あなたもわたしも継承者』を紹介。継承意識について説明され、家族の日常習慣をみてみると「家に仏壇があり普段からお線香やお花などを上げる」「お墓参りによく行く」「家に神棚・祭壇があり普

段からよくお参りしている」などの行為をしている家庭に継承肯定派が多い。現在は仏壇を置く場所のない家庭も多いと思うが、御先祖、祖父母、両親の写真を飾り、日日挨拶をする親の姿が薫化として子供達に引き継がれ、家族の絆が強くなってゆくのである。

それからレジメ「純粹倫理の特質」「純粹倫理を学ぶ」を詳しく説き明かして下さった。  
◎子の親になる前に親の子となれ

◎人間は教わった事は出来るが教わっていない事は出来ない  
質疑応答では門園美枝子さんの「朝の集いでの輪読をする時、ハイと返事をして読み始めるが、ハイということに何か意味があるのか」という質問に対して次席は丸山敏雄先生は「こうです」とはおっしゃっておられませんが、「積極性を養う」「けじめをつける」「合図」「区切りをつける」「気合を入れる」等、色々な意義があるのではないかと話された。

倫理の学びを教わろうとする心がとても大切なことであると

倫理の学びの原点を丁寧に説明下された。充実した勉強会でした。  
（参加者十二名）  
（梅本和子記）

## 朝の集いと講話

七月十四日（日）午前八時半より、有坂宏一法人局普及事業部次席を迎えて行う。

実践報告では、日本語学校の校長を務める川田末子さんが、「二日前に有坂先生が教えて下さった〈合わせる実践〉を始めた」と報告。学校の職員を対象とする朝礼と帰りの会で、皆の手仕事をやめさせ、全員に前に立つ自分の方を真直ぐに見て貰い、笑顔で大きな声を出して挨拶をするという実践だ。すると空気が明るく爽やかになり、それが子供達にも伝わってゆくことを実感したというもの。これからも続けますとのこと。

続いて、摺木洋子さんが癌摘出の手術後、倫理の先生に心構えを司うと、「親先祖、周りの方々への感謝を続けると同時に、自分の体の中の臓器にも〈頑張ってくれてありがとう〉

と感謝しましょうと教えられたとのこと。そのような発想が今までには無く驚いたが、この度、体調を崩し、改めて臓器への感謝が沸き起こってきたと発表した。

『葉』十六条「尊己及人」の講話を有坂先生にして頂く。

「尊己及人」の「己」とは自身自身を深く知ることであり、「おかげ様」の心になることである。・・・その例として、百一歳の高年齢でありながら倫理茨城県講師、法人会会員として今も現役で活躍される大久保あい子さんを紹介。・倫理と初めて出逢って今がある。（おかげ様）・仏壇に手を合わせ、亡きご両親ご先祖さまに繋がる。・これまでに自分がいかに多くの方々の大きな力を受けて来たかに想いを馳せる。・働くことに喜びをもち、我がままを捨てる。・・・と。

また栃木県で三百五十年間に渡り旅館を営んできた『伴久』の女将達が代々大切に守ってきた座右の銘を紹介。平家の落ち武者が身を隠すために始めたこの店に伝わる『四きよの教え』とは、①「狂」・・・狂うほど

仕事をせよ、②「侠」・・・義理人情を忘れるな、③「競」・・・「なあなあ」の馴れ合いに陥らない。④「協」・・・協調、協和を大切に。この旅館に客が足を踏み入れると、「いらせられませ」と迎えられる。これは、平家の言葉で玄関を入られた瞬間からお客様は神様だという意。お客様への最初の言葉がけを、平家の言葉ですること、先祖を敬い、共に生きるという意味がこめられているという。

有坂先生ご自身のエピソードを一つ紹介。富士研で二年間の研修を終え、『新世』の編集班として実家から通うことになった初日のこと。朝早く起き、屋上に上がり、富士山に向かい「今日、一日頑張ります」と祈っている所へ、同じ頃、母親も同じ場所へやって来て、やはり富士山に向かって祈っている。「何をしているのか」と尋ねても答えしてくれない。毎朝、自分が屋上へ上がって誓いを立てていると、やはり母親がやって来て何かを祈っている。父に尋ねてみると、「何をしているのかは知らないが、お前が富士研へ研修に行っ

た日から毎日屋上に上がっている」と聞かされ、ハツとした。母は私のことを祈ってくれていたのだ。・・・それまで、自分ひとりで頑張っている積りでいたが、この時から（自分ひとりで生きているのではなかった。有難い！）という、感謝の気持ちを持って祈る自分がいます。・・・と。

『おかげ様』『有難い』と感しながら毎日を生きられることが、その人生を豊かにし、周りの人々にも大きな力を与えてゆくことに繋がるのだということ強く感じたお話をした。

（参加者二十八名）  
（草野律子記）

『倫理運動ガイドブックより』  
Q 倫理研究所本部はどこにあつて、どんなことをしているのですか。

本部の所在地は、東京都千代田区三崎町三の一の十。JR水道橋駅西口から歩いて五分の所にある、倫理文化センターという名前の八F建てビル全体が本部事務所となっています。本部には約百五十名の専従の職員が勤務しています。職員には、純粋倫理の研究や普及に

たずさわる研究員と、出版および一般事務を担当する事務員がいます。いずれも倫理研究所の事業方針にのっとり、業務の遂行に努めています。

倫理研究所の事業は、次の八つに集約できます。

- 純粋倫理の総合的研究
- 生涯学習の組織的展開
- 情報メディアの発信
- 社会教育の実施と施設の運営
- 文化活動の推進
- 国際交流の推進
- 広報宣伝・渉外活動の推進
- 環境保護・社会福祉活動への協賛

本部の役割は、「研究」「教育」「出版」「普及」の四つの大きな歯車がしっかり組み合っているさまをイメージしていただくと、分かりやすいでしょう。

まず、純粋倫理をあらゆる日常生活に適応すべく開発し証明を続ける「研究」という第一の歯車がまわると、それを活動の中心となる人々（会員）へ伝達する「教育」が行われ、同時にこれをより明確にするための「出版」がなされ、最後にこれを全世界に「普及」すべき仕事を

（4ページに続く）

おめでとうづいぎいます

『秋津書道』七月号

調和体

入選 咲田静子 高等部（東京）

競書

入選 滝川政和 人の部（東京）

入選 堀井幸江 高等部 々

入選 長谷川伝子 高等部 々

入選 咲田静子 高等部 々

入選 梅本豊造 高等部 々

入選 前田グレース 一般部（東京）行書

入選 小倉治望 々 楷書

入選 竹内康子 々 々

『しきなみ』七月号

三席 摺木洋子 真砂集（西東京・海外）

杖をつき屋根に登りて修理する二ヶ月過ぎる術後の夫よ

（3ページ）『倫理運動ガイドブック』より）  
につなげていきます。

この四つの歯車が、たがいに密接なつながりを保ちつつ回転することで、倫理運動という「地球の安寧・世界の平和」をめざす社会教育活動が、休みのない歩調をもって一歩一歩前進していくのです。

この歯車にはさらにいくつかの小さな歯車が組み合っています。たとえば「出版」の中には、ビデオなどの映像制作の仕事もありま  
す。「普及」ではインターネットによる広報宣

伝活動も進めています。「教育」では、書道、短歌などの文化活動も推進しています。また「研究」では、倫理専門図書や倫理運動にまつわるさまざまな資料の収集整備も行っています。このほか、静岡県御殿場市には倫理研究所の教育センターとして富士高原研修所などの教育施設があり、霊峰富士を仰ぐ自然環境の中で、年間を通して会員教育、研究員をめざす研究生教育を行っています。

※『倫理運動ガイドブック』は二〇〇二年十一月発行ですから数字などに多少の違いがあるかもしれませんが、倫理運動の概要がよくわかります。



しきなみ短歌

うす青く涼しげなりしこの花にさわりて見たき紫陽花の球 滝川歌子

散歩道紫けぶる並木路の次々落ちる花のじゅうたん 奥本洋子

ロープウェー一気にかかる山頂の空は真澄みて冷気刺しくる 杉野和子

カブスカウトやんちゃ坊主の集いでも一声かかれば直立不動 長谷川伝子

濃緑の空に迫れる万里城間かく毎にのろし台あり 塩出笑子

公園の桜並木に夕陽さすあまたのカメラ一瞬を撮る 橘高比呂美

窓際の木もれ日浴びるシクラメンすつくと立ちて花弁をひらく 伊澤潤子

八時間のワシントンモールを歩き続けホテルで靴脱ぎほっと一息 梅本豊造

ライアンが腹痛訴え入院す夜更けの出来ごと盲腸炎で 梅本和子

些細の事心とみるよろこびを今日を生きゆく糧とする朝 門園美枝子

友よりの心づくしの柏餅亡父の生日今も祝うと ホン史子

さ庭辺で耳にイヤフォン手にビール二年振りかな夫のバーベキュー 松永典子

暑き日に従業員が買ってくれしアイスクリームの味はスペシャル 草野律子

日に二つ枇杷の種をかみしめて癌の広がり止めんと掻く 摺木洋子

真夏日にアイスクリームの店先の外まで続く行列につく 松元依子

義母亡き後夫を育てし叔母訪米四十年の話し尽きぬ夜 大川敏子

酒なくも心深深酔いしれぬ友が醸せし短歌（うた）の音押し 西島幸彦

新聞を読まぬ人達多い国黎明の月朝刊ひろう 和田好江

黄と白が数百咲けるトランペットの花はかすかに揺らぎつづくる 伊勢田豊

はかなくも風に舞い散る桜花あと数日を鮮やかに咲け 矢口裕司